

## 平成 21-22 年度海洋水産資源開発事業(システム対応型：全層トロール) の調査概要



調査船：第五十八富丸（401 トン）

調査期間：平成 21 年 8 月～1 月，平成 22 年 4 月～8 月

調査海域：南インド洋西部海域

### 本調査の目的

底魚資源に加え，公海上の表中層域に豊富に存在すると推定される多くの低・未利用資源をも対象とした全層トロール操業を確立するために必要な表中層トロールによる漁獲技術を確立する。

### 本年度調査の主な成果等

利用可能な漁場の縮小などにより厳しい状況にある日本の遠洋トロール漁船は，近年，北太平洋公海域の天皇海山を主漁場のひとつとして操業してきた。しかしながら，公海底魚漁業が脆弱な生態系に及ぼし得る悪影響を防止することが国連で決議されたことを受け，天皇海山水域においても漁獲努力量の一部削減が必要となっている。このようなことを背景とし，平成 21～22 年度の 2 か年にわたり，南インド洋西部公海域において，海底の生態系への影響を考慮した中層トロール漁法を用い，海山群上に浮上した有用魚種を対象とした新たな漁場開発に取り組んだ。

開発する漁場の想定漁期は，天皇海山の代替漁場とすることを考慮し，4 月～12 月（日本からの出漁期間：3 月下旬～1 月上旬）とし，平成 21 年度には想定漁期の後半期に，22 年度には前半期に，それぞれ調査を実施した。当該出漁期間中の想定損益分岐金額は 5 億 7 千万円（200 万円／稼働 1 日）とした。

中層トロール漁法により，魚群の鉛直移動に合わせて曳網することで，漁具を着底させることなく有用魚種を漁獲可能であることを確認した。主たる漁獲魚種は，キンメダイ，クサカリツボダイ類，メダイ類，ミナミメダイであった。平成 21 年度の製品生産量は 1,218 トン，生産金額は 385,391 千円（消費税込み），平成 22 年度の製品生産量は 589 トン（暫定集計値）であった。

平成 22 年度調査の漁獲物販売はこれからであるが，想定漁期の後半期に相当する昨年度調査の販売結果と，想定漁期の前半期に相当する今年度の製品生産状況から，当該海域における中層トロール操業により，当業船の想定損益分岐金額は確保することが可能であると期待される。

表 南インド洋西部公海域調査における製品生産量及び金額 (数量:トン)

航海	H21年度調査 (全3航海)	H22年度 第1次航海	H22年度 第2次航海 *	H22年度 第3次航海 *	合計
航海期間	8月-12月	4-6月	6-7月	7-8月	4-12月
キンメダイ	1,115	163	178	188	1,644
クサカリツボダイ類	42	6	5	7	60
メダイ類	25	13	2	5	45
ミナミメダイ	13	3	1	2	19
その他	23	10	6	0	39
合計	1,218	195	192	202	1,807
販売金額(消費税込)	385,391千円	78,309千円	未販売	未販売	-

\* 平成22年度第2次，第3次航海の製品量は暫定集計値